

令和6年度

福祉体験作文

コンクール

作文集



弥富市社会福祉協議会

ごあいさつ

このたび、九回目の実施となる本会主催の福祉体験作文コンクールに、市内各校より多数の福祉体験作文をお寄せいただき、誠にありがとうございます。優秀作文を作文集としてまとめさせていただきましたので、お手に取ってご覧いただけると幸いに存じます。

さて、児童・生徒の皆さんの作文に目を通させていただき、皆さんがさまざまな体験、経験を実際にしたこと。その経験を経て感じたこと、考えたことを文章にするためにしっかり考えたことがよく分かります。

児童・生徒の皆さんにとつて、とても貴重な体験になったことと思います。すべての経験が楽しかったり、嬉しかったり、すぐに良い経験と思えるものばかりではなかったことでしょう。きっと、驚いたことやつらい経験もあったことでしょう。楽しい経験は誰かと共有することでもっと大きな喜びになり、つらい経験はその経験を共にした仲間と分かち合うことで軽減することが出来ます。その場に実際に立ち会ったことで、誰かの助けになったり、助けられたりしたかもしれません。

また、経験したことを、そのままにせず、振り返り、

誰かに伝えたり、文章にしたりすることで再度考えることは「今度、似たようなことがあったら」「自分に何ができるか：」などと、自分ごととして考える機会になります。それこそが、自身の価値観を磨き、思いやりの心を醸成し、実りある体験の場になったと言えるものになると思います。

最後になりますが、児童・生徒の皆さんが様々な経験、体験をする機会として、多くの福祉事業所や地域の団体にご協力いただきました。誠にありがとうございます。事業所や団体に携わる皆様、利用される方やその家族の方々のご理解のもと、ボランティア体験等実施できております。学校や家庭だけでは経験できない機会をいただけています。今後とも、地域の皆様には、子どもたちや若い世代を地域ではぐくむ仲間としてご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和六年十二月

社会福祉法人弥富市社会福祉協議会

会長 三浦 義光

令和六年度「福祉体験作文コンクール」作文集

最優秀賞	名前を呼ぶことで	海翔高等学校	一年	久野	和咲
優秀賞	私の幸せな悩み	十四山西部小学校	六年	早川	晶那
秀逸	見えにくい障がいと手話	桜小学校	五年	鹿島	彩羽
入選	初めて分かること	十四山中学校	三年	佐野	栞奈
入選	日常に息づく福祉の心	弥富北中学校	一年	松川	葉月
入選	働くためにできる事	桜小学校	六年	伊藤	優衣
佳作	町のバリアフリー	十四山東部小学校	六年	浅井	美羽
佳作	お年寄りの不安を体験して	十四山西部小学校	五年	岩井	智紀
佳作	初めてのボランティア活動	大藤小学校	五年	後藤	那緒
佳作	ほじょ犬とふれあってみて	十四山西部小学校	三年	溝口	穂夏

名前を呼ぶことで

愛知県立海翔高等学校
一年 久野 和咲

私が介護福祉士について深く考えるきっかけになったのは、幼いころから両親が共働きで、母の実家で朝から夜中まで曾祖母と一緒にごすことが多かったことからです。その中で曾祖父が特別養護老人ホームに入所をし、よく祖母と面会に行っていました。施設の職員の方が利用者の方にも、私たち家族にも優しく接して下さり、近況や体調の変化を伝えて下さったのがとても印象的でした。それを見て私も介護福祉士として高齢者を助け、利用者の方の少しでも元気な姿で、ご家族と面会をしていただきたいと感じました。これまで、福祉といえれば施設での介護というイメージが強かったのですが、実際に学校で勉強してみると、介護・医療の専門的な知識や、福祉に関する制度や政策の背景まで深く勉強していることが分かりました。そこで、デイサービスで七日間介護実習に行ってきました。

初日、私は緊張でいっぱいになりながら施設へむかいました。施設の職員の方々と挨拶をし、その際に職員の方から「緊張しなくて大丈夫だよ。気楽にいきましょう。」と声をかけられ、不安に思っていたことが、少しずつ期待へと変化していききました。職員の方から介護の基本的なことや、利用者の方との接し方について教えていただき、その後教えのついでに、利用者の方と接するところへ足を運びました。そして、入浴介助を見学し、やれるところは実践させていただくことができました。また、周りを見回して動くこと、食事の配膳や利用者の方とコミュニケーションをとること、レクリエーションの簡単なサポートなど、さまざまな体験をしました。不安でいっぱいでした。高齢者の方でも、身体的な不自由さをもっている方や、認知症の症状を抱えている方もいらっしゃるのか、どのようになっているのか、どのように対応すればいいのか、どのように対応すればいいのかなど、職員の方から、あそこには座って

いる方たち喋りやすいよ。行っておい
で。」
と背中を押し、丁寧に教えて下さった
おかげで、少しずつ慣れていくことが
できました。
しかし、コミュニケーションをとつ
てみて自分の思い通りにいかない場面
がたくさんありました。私は幼いころ
から曾祖父母と過ごしていたので、利
用者の方とのコミュニケーションをと
ることはできると簡単に考えていまし
たが、実際はうまくコミュニケーション
をとることができなかつたり、コミ
ュニケーションの内容が分からなかつ
たりしたので。なぜできないのか、
私は戸惑い、考えてみました。それは、
曾祖父母のことは幼いころから身近に
いて、深く知っていたけれど、利用者
の方は初めて会う方ばかりで、その方
一人ひとりのことを深く知らないこと
が理由の一つだと悟りました。
そんな実習中のある日、名前を覚え
て下さっているとは思わなかつた方か
ら、「実習生さん」ではなく「久野さん」
と呼んでもらえました。そこで私はハ
ッと気づきました。今までの「利用者」
と「実習生」という関係が名前を呼ぶ

ことで一人の人と人との関係になり、
距離が近くなるという同じように、
したら、これが曾祖父母と同じように、
その人のことを深く理解し、コミュニ
ケーションをとることでできるように
なる第一歩になるのではないかと思
いました。
実際に、お茶出しをする際に
ね。」「○さん、お茶出しを
と名前で呼ぶと、
「今、名前呼んでくれた？覚えてくれ
よ。」
と仰いました。私は、嬉しく思ったと
同時に、名前を呼ぶことはその方を他
の誰でもない、かけかえのない存在で
あると認めることだと実感しました。
そう、よりよいコミュニケーションが縮ま
り、よりよいコミュニケーションが図
れると思います。そして、コミュニ
ケーションを深めることによって、そ
の方の望む生活を知ることができると
ではないかと気付くことができました。
では、この介護実習を通して、私は福祉が
単に不自由さを「助ける」だけの行為
ではないことを体験的に学びました。

こうかな。私の楽しい悩みが、いつまでも続きますように。

見えにくい障がいと手話

桜小学校

五年 鹿島 彩羽

わたしと手話の出会いには、二年前にテレビ放送された「silent」というドラマです。わたしはこのドラマで手話に興味を持ちました。そして、聴覚障がい者さんとのコミュニケーション方法には「手話」「筆談」「口話」があることを知りました。さらに、聴覚障がいの場合は生まれつきの場合と中途失聴の場合がある事も知りました。

わたしは、生まれつき聴覚障がいがある方は、自分の声も、相手の声も聞いたことがないのに、口の動きを自分で覚えて伝えていてどんなすごい努力をすれば、そんなことができるのかと、本当に心から思います。

わたしも家族と、声を出さずに口をパクパクさせて、話をしてみました。が、

短い単語などはわかりやすいですが、長くになると全くわかりません。家族でもこの様な感じならば、他の人ならなおさら、わからないだろうと思いました。

そんな中、昨年学校の福祉実践教室で、手話について学び、触れ合う事ができました。手話で名前を伝える時は、指文字で表しますが、苗字の手話は、漢字を別々に表現します。わたしはまだ指文字での自己紹介しかできないので、漢字の意味の手話もできる様に練習したいです。

その後、聴覚障がいのある女の子が主人公のマンガがアニメ化され、それを見て、聴覚障がいは、目に見えにくい障がいと言われている事を知りました。確かに、見た目では聴覚障がいはわかりません。さらに、聴覚障がいに「全く聞こえない人」「小さな音が聞こえない人」「音は聞こえても、何の音かわからない人」など、聞こえる程度はさまざまなの事も知りました。

また、年をとるにつれて、聞こえにくくなる人など、人それぞれです。わたしのお母さんのおばあちゃんも年をとって、耳が聞こえにくくなってしま

い、以前にお母さんはよく、「大きな声
で話しかけるから、怒っている様に伝
わらない様に、なるべく笑顔で話しか
ける様にしている」と言っていました。
その時、わたしは、時々テレビで見る
手話ニュースの手話でニュースを伝え
ている方の表情が、とても豊かだった
ことを思い出しました。
情と口もパクパク動きだけではなく、表
情、たくさんの工夫が必要なのだと思
いました。
要とする人はいませんが、いつかだれ
かの助けになれる様に、「手話」を覚え
ていきたいと思いました。

初めて分かること

十四山中学校

三年 佐野

栞奈

私は、昨年、市で行われていたボラ
ンティア活動の中の音訳ボランティア
に参加しました。きっかけは、音訳ボ

ランティアという聞いたことのないこと
が活動に参加してみたいと思ったこと
がきっかけです。私は、あまりボラン
ティア活動に参加したことはありませ
ん。興味を持ち、初めて聞いた活動の名前
に興味を持ち、自分なりに障害を持
った。私は今まで自分なりに障害を持
っている人はいるとおらず、他人事で、あまり
感じていません。しかし、今回のボラ
ンティア活動で、私の考えは大きく変
わりました。
私はどんなことを行うのか何も知りま
せん。友達と二人で参加したのですが、
私の友達と二人で参加したのですが、
友達は初めてだったのに、私と同じく
行うのか分からなかった状態でした。
ど私のか活動の当日まで、どんなこと
をするのか待ちきれず、インターネットで
音訳ボランティアの音訳ボランティア
てみましました。障害のある方のため
は視覚に障害のある方のために書籍や
雑誌、広報誌、新聞などの内容を音声
にしています。広報誌、新聞などの内容を音声

に、朗読と同じことではないかのかと
思いましたが、朗読は、読み手の解釈
で感情を込めて読んだり内容を読み変
えたりして、作品として仕上がったも
のを聞き手が鑑賞することで、音訳は、
聞き手（視覚障害者）が情報を得るため
に利用するものなので、内容が正しく
伝わるように、書いてあることを書い
てある通りに読まなければならぬも
の、だということを知りました。そのた
め、音訳ボランティアは視覚に障害の
ある方の「目の代わり」となって、情
報を声で伝えることが大切になると理
解することが出来ました。

便りとして当日、市が行っている「声の
しまし」というボランティア活動に参加
し、情報伝えるのではなく、毎月、人
に「タ―ネットを通して広報の情報を伝
える」という活動を行って、ボランティア
シアの方々がいらっしやいました。そ
して、そこで、音訳について詳しく
説明や、なぜボランティアの活動を行
っているのか、などの話を聞きました。

その後、私たちは読み方のコツや、ど
かなどを教える聞き手になりながら広報を
読

んで、朗読と同じことではないかのかと
思いましたが、朗読は、読み手の解釈
で感情を込めて読んだり内容を読み変
えたりして、作品として仕上がったも
のを聞き手が鑑賞することで、音訳は、
聞き手（視覚障害者）が情報を得るため
に利用するものなので、内容が正しく
伝わるように、書いてあることを書い
てある通りに読まなければならぬも
の、だということを知りました。そのた
め、音訳ボランティアは視覚に障害の
ある方の「目の代わり」となって、情
報を声で伝えることが大切になると理
解することが出来ました。

私、早く自分自身の声を聴いてみました。
目立って、いままで、声の震えなどは
長年やっていて、まだボラシアの方々と
比べる、まだまだよくすることがで
きた。今回の活動を通じて、私がまだ知ら
なかつたボランティア活動に挑戦する
ことが出来ました。初めて体験する
ごく、達成感や、自分が行ったことが誰
かの役に立っている、実感することが
できた。私は、ボラシアと聞くと、純粋

に人のために動くというより、他に
 る利益のために個々で黙々と作業する
 ことだと感じていました。しかし、今
 回の経験をを通して、ボランティアの活
 動はたくさんの人との関係を築くこと
 ができるし、活動を行うことによって、
 障害を持つている方や、高齢者の方の
 助けになるという分り、私が今まで思っ
 ていた以上にいい活動だと知ることが
 できました。
 自らボランティア活動に参加する人
 たちは日常的に気遣いをすることがで
 きる人が多いと今回の活動を通して感
 じました。この世界には、まだ私の知
 らないボランティア活動がたくさん存
 在していると思います。そして、いろ
 いさんなところでも活躍している方が
 いるか。いろいろな活動に参加してい
 きます。私もその中の一
 人になることを目指す。そして、これ
 からもいろいろな活動に参加してい
 きます。

日常に息づく福祉の心

弥富北中学校
 一年 松川 葉月

福祉とは、人々の幸福や生活を豊か
 にしていくために協力して行う支援や
 配慮を意味します。自分自身も、日常
 生活の中でさまざまな福祉の経験をし
 てきました。それらの経験によって、
 他者との関わりや助け合いが自分自身
 の「福祉の心」を成長させることを学
 び、「福祉の大切さを感じました。これ
 から、私が体験した福祉に関する出来
 事を、いくつか紹介します。
 家族旅行中の満員電車で、席に座つ
 ていた私は、目の前に高齢の女性がた
 ったいて座る様子で、足元がふらつい
 は疲れているのを見取れるほどでした。私
 はすぐ席をゆずろうと立ち上がった。
 「どうぞ、席をゆずらせてください。」
 と声をかけると、少し驚いた様子で
 「ありがとうございます。」
 と微笑み、そのまま座ってくださいま
 した。この経験を通じて、他者にとっ
 ては

大きな助けになるということを知りま

した。次に、外国人観光客との会話についで、次で、道端でスマートフォンで地図を見かけたとき、英語で話しかけてみる、と、目的の地までの道がわからないと、道案内をしてみました。アプリの地図を指さしながら、

「Turn right here, and go straight.」と説明し、目的の地までの道順を正しく伝えることができました。その方は笑顔で

「Thank you.」

とお礼を言ってくれました。このことは、言語の壁を越えたい、この大切さを教えてくれ、ました。たとえ完璧なコミュニケーションではなくても、相手に寄りそって助けようとする姿勢が何よりも重要だと感じました。

を深める機会があり、猫について知識を深めるネットの記事を通して、テレビや崩壊など捨てられた動物たちが保護うられて新しい飼い主を探している、という現状を知りました。これによって動物

物福祉に対する意識も高まり、動物たちが幸せになるには自分で何が出来るかを考えるようになり、命の大切さについて飼うことへの責任や命の大切さについて、飼えさせられ、今の飼いや保護犬に飼うことの手で幸せにしようと思いついて、動物たちの幸福について考えること、福祉の一環だということの重要性を感じました。

経緯があり、地域の防災訓練は、地域の人々として行われてきました。私は、地域の人々と一緒に避難経路の確認や、初期消火訓練、応急処置の方法を学びました。特に印象に残ったのは、訓練を通して、地域の人の多くは、話すべき機会がなかつた。す。多くは、災害に対する機会がなかつた。人と、災害に対する機会がなかつた。流を深めることが出来る。地域全体で助け合うことが出来る。大切さを知らず、地域全体で助け合うことが出来な。最後に、エレベーターを高齢の方に

前テレビドラマで調理をして働くな人がハ
ンバーガード店で見ました。目の自由な
内容の番組のように使う物を置いたりな
人が分かるように工物や器具を置いてし
スイッチのボタンが工夫されていたりし
た。目が見えなくても手で触れることに
よって違いが分けてもらって、判断す
ることが出ない。他の人と全
く同じように仕事をするのは難しい
けれど、工夫されていることよって、
出来ることと出来ないことがある。不
自由や障害があっても働こう、やっ
てみようと思っただけでもすごい
ことですよ。ただやりたいだけでは何
も出来ませんが、このハンバーガー店
のように受入れる対応があつて障
害がある人が働けるといふことも分
りました。母もいつも言ってますが、障
害のある人がまだ満足して生活は守ら
れるか、いけません。法律では生活守ら
れるか、いけません。実際にはみんな働
く喜びを実感し、自信を持って社会生
活を送れるのはいいですね。社会生
活も多くの障害のある人達に少
と増やしたい。世界になつて働
く強い思いがありました。

母の話について、母と色々な話を話
達が満足に働いて、過ぎから障害者
来ると言う考えは、障害者の生活が
じよと考えることは、障害者の生活
来ると言う考えは、障害者の生活が
て、出来る事が増えていくように
ら、障害がある人も一緒に働ける仕
事を増やしたい。書くことよって考
えさせられました。

町のバリアフリー

十四山東部小学校

六年 浅井 美羽

私も、トイレやお車が大好きです。
でも、大変な車は、おもしろい。
一、大変な車は、おもしろい。
に、残っているのは、生活する中
に、残っているのは、生活する中
に、残っているのは、生活する中
に、残っているのは、生活する中

す。それでも、がんばって、いるのはす
ごいと思いましたが、次に、バリアフリ
ーと言ったのを調べてみました。バリア
フリーとは、車をいす目を利用する人のた
めに段差をなくす、目の不自由な人のた
めのある点字の案内をつくるなど、障害
のある人たちのために工夫をして、作ら
れたと高いところ、背のどかない社会
には、高いところ、背のどかない子
供や、足の弱い高れい者や言葉の
分からず、外国の人など、いろいろな
て、それぞれに不便や、不自由を感じて
います。このお話では、どんな人がど
んな事にバリアを感じるか、また、そ
れをなくすための道具や工夫をとりあ
げている事はないかと、自分たちにもな
きる事は、ないかと、考えるお話でした。
つづいて、「道路のバリアってなんだろ
う？」です。道路のバリアとは、歩行
者は、自転車や車にぶつかると、命に
関わる事故になります。目や耳に不自
由がある人、高れい者や小さい子供、
ベビーカーをおす人など、つては、
その危険がさらに大きくなり、そ
こで、だれもが安心して通行するため
に、いろいろな設備が考えられました。
また、車いすを利用する人にとっては、

階段はもちろんです。小さな段差も大き
な段差は、なるとなると、歩行が困難
になります。段差をなくす工夫を
も、広がり、歩行が困難になります。段
見ながら歩行が困難になります。段差
前からは、目の不自由な人や車いす
小さい子供が来た時、ぶつかって利用
をさせ、通れなくなるもの、だから
道は、みんなで使うように、おたが
安心して通れるように、おたが、道
ずり合おう気持ちは、大切で、また、
でこまわしいことができる人がいた
お手伝いできる人がいた、かたずね
みたいと思いましたが、次に、「公共の
イミのバリアフリーについて、調べ
てみました。公共のトイレは、駅や
店など、外出先にあるトイレは、さ
まな人が利用しやすくなるように
ても、気が持ちます。よく使われる
が、大事です。みんなが使うトイレ
ど、かなバリアがあつて、どんな工
るのかを調べてみました。先に、「公
のトイレのバリアって、なんだろう？
です。公共のバリアは、例えば、目
自由な人は、車いす利用者は、その
また、中に入ります。車いす利用
ところ、障害があり、便利で、見え
と

する人もいます。みんなが使うトイレだから、一人ひとりのバリアをできるだけ、なくすために、多くの機能を備えたトイレが作られています。調べ、聞いて、町のバリアフリーについて、どこも知らないこと、生活は大変だと分かって、障害のある人の生活は、字づから大切にして、思った事は、点字と言ったり、心を残して置かない、いまから、他にも、みんなが使うトイレ、か、他に、残して置きたいと思、た、この本を読んだら、私も大切に使、る人が、読むか、障害者に、バリアがあるのか、探してみたいと思、います。

お年寄りの不安を体験して

十四山西部小学校

五年 岩井 智紀

ぼくは、和歌山市から弥富市へ四月に転校してきました。ぼくが住んで、たのは和歌山市の中でも新しい町で、とても新しい家ばかりあって、若い人たちが公園にいっぱいいました。でも、弥富市に引っ越ししてすぐ気になったのは、スパーや通学路で会うのがお年寄りが多いところ、日本では全体の約三十%の人がお年寄り、今後はその割合がどんどん増えていくことを知っています。それからは、お年寄りを多く見る、そんなとき、小学校で社会福祉体験、授業があると聞き、初めは、なんでこんなことをするんだろうと思、いました。社会福祉体験では、耳、目、手の感覚をお年寄りと同じにするもの、思、て、最初は、初めに、耳の体験で、し、た。疑、い、ま、し、た。で、は、耳、栓、を、付、け、て、ま、し、や、べ、り、あ、い、ま、し、た。と、も、聞、こ、え、づ、ら、か、つ、は、友、達、の、声、が、と、も、聞、こ、え、づ、ら、か、つ、

た、低い声や高い声で話しかけて、聞
 こえやすいお年寄りの高さがあるこ
 りました。お年寄りはいつも耳が聞
 えづらいた。話しかけるときの声の
 さに工夫が必要だと感じました。

次に白いものを付けました。ゴーグル
 中、病気の疑似体験だそうです。白内障
 いう病気の疑似体験だそうです。八十
 歳以上高齢者はほぼ%かかる病気だ
 そうです。その状態で字を見ていると、
 とてもぼんやりとしていて、見にくく、
 とも近くまで寄らないと字がそこに
 あるか分かりませんでした。また、
 周りの様子もよく分からないので、と
 も不安を感じました。

最後に軍手をつけて、紙を取るた
 手袋と軍手をつけて、まず紙を取るた
 めに紙をめくりました。軍手をつける
 と滑ってめくりにくかったです。よう
 やく取れた紙にペンで星のマークを
 いたり、はさみでその形に切ったりし
 ましたり。ペンは滑り書きにくくは
 みは思ったように切れませんでした。
 疑似体験をしように、お年寄りがど
 ようなことで困るか、お年寄りがど
 とが出来て良かったか、お年寄りが

身の回りでも不安を感じていることが
 とで不安を感じていることがわかり
 ました。お年寄りが不安を感じる
 り、筋肉が弱りやすくなると外出が減
 動きにくくなると、友達や刺激が減
 また、認知症になりやすくなると思
 す。認知症になりやすくなると思
 ていくと思うので、不安そうなお年寄
 りを見かけたから、どんなお年寄
 りをかけたか、お年寄りの気持ちに
 のようなことになっていて、か
 手助けできるようにしたいです。

初めてのボランテニア活動

大藤小学校

五年 後藤 那緒

でわした。今までのボランテニアのイ
 がなくて、わたしがこまっている時
 がなくて、今までのボランテニアのイ

助けてもらっていても、それが当たり
前で気付いていなくても、でも、
今回実際に自分がボランティアをやっ
てみて「わたしの身の回りには、たく
さんボランティアをしてくれている人
がいるな。」と気付きました。例えば、
登校中にいっしょに横断歩道をわたっ
てくれる交通安全ボランティアの人達
です。交通安全ボランティアの人達の
おかげで、安全に登校することができ
ています。だから、わたし自身も安全
に気を付けるし、これから毎日わた
しにくれるボランティアの人にも感謝し
ながらわたりたいです。他にも、プ
ルボランティアや読み聞かせボランティア
などがあります。身の回りにはあり
ます。ボランティアは、社会のために自
ら進んでやることだと分かりました。ご
ほうびをもらうためにやるわけではな
くて、自分以外の人を思いやる気持ち
が必要なんだと分かりました。
がわたしは、ボランティアは、ク
ッキー作りのボランティアです。わた
しは、実際に作りながら説明すると思
つていました。でも、「言葉だけで説明
するよ。」と言われてこまりました。き

んちようはしなかつたけれど、伝え
言葉が全然うかばなくて、むずかし
かったです。だから、もつと本をたく
さん読んで、言葉の数をふやしてい
いで、クッキーが焼き上がって運ば
れてきた時、ほとんどの子がクッキ
をもらった喜びで、自分が元種を
作ったわけじゃないけど、自分もうれ
しくなりました。わたし「教えて良
かったです。わたしがやったのは、最
他に道具の準備・作り方の説明・最
のかたづけがあります。いろんな仕事
をたくさんやりました。一番心に残
った仕事は、つくえの、
ふきかたを覚えてもらいながら、
一生けん命やっていたら、先生が「い
いボランティアだね。まかせられるわ。
」と言ってくれました。その時が一番
うれしかったです。それからいろいろ
ろんな人に「最後までありがとう。」が
んばっているね。」など、いっぱいめ
てももらえてうれしかったです。その後、
もらえるのと知らなかったおべん当も
らえて、クッキーはお金やごほうびが
ランティアは、お金やごほうびがない
「無しよ。」でやっているけれど、わ
たしは「ごほうびがもらえてうれし

たです。そして、がんばった結果と
 が分りました。ボランテニアが終
 った後「お手伝
 いとボランテニアの何が何？」と
 いう話になりました。わたしは「お
 伝いの英語がボランテニアで、ボ
 ティアの日本語がお手伝いだと思
 と答えました。でも、実際に調べ
 たら、お手伝いの英語はヘルプだ
 した。ボランテニアは無しように
 的に社会のためにすることだと知
 した。ボランテニアをやったこと
 の意味を知ることもできたし、身
 りのボランテニアもついでに回
 もできなくなりました。最初は、
 関心がなくなりました。そして、
 関心が出たとき、今回の活動で
 らはもつと自分ができる活動が
 いて、今回よりも役に立つように
 います。

ほじよ犬とふれあってみて

十四山西部小学校

三年 みぞ口

ほの夏

家ぞくで買いものに出かけとき、
 うどう犬とかいじよ犬とふれあ
 べントをしていました。ほじよ犬
 たちは、わたしが近くにいても
 ったままじっとしていてもおと
 なしくてもかわいかったです。
 ほじよ犬は三つのお仕事がある
 てくれました。目の見えない人
 にお手つだいを生活して犬、車
 すやつだいを生活して犬、耳が
 手つだいを生活して犬、耳が聞
 えな人の体をタッチしてひつよ
 音をたえらるちようどう犬が
 とくべつたなくん練をしていま
 やバスにのるときや、スパー
 ものをするとときも一しよに
 そうです。ほじよ犬がお仕事を
 ハーネスという道具を体につ
 す。見かけたらあたたく見ま
 下

さいね。お仕事なので、声をかけた
 り、さわったり、前から目を合わせた
 りしないで下さい。とくん練しさんが
 教えてくれました。とくん練しさんが
 犬はおとなしくかいてみて、ほじよ
 ネスをしてあげたいなと思いましたが、
 ようにしてあげたいなと思いましたが、
 ！家に帰ってからお母さんが、インタ
 ーネットで見せてくれました。かじよ犬の
 動画を見せたり、落としたり、ぬがせ
 は車のすをおしたり、落としたり、ぬがせ
 たものを拾ったり、落としたり、ぬがせ
 て着がえのお手つだいをしたりして
 ました。人がお手つだいをしたりして
 たいでびつくりしました。の目見えな
 にもうどう犬は、目の見えな
 になつてあるみたいで、かいだん
 や歩道のあぶないところでは止ま
 教えていまふないところでは止ま
 号の色はわかんないで、犬は、しん
 いる人が車の音などよく聞いてす
 むそうです。町の号でも聞いてす
 といつしよにこまっています。人が
 たすけたいなと思いましたが、
 こほじよ犬とふれあってみて、色
 ことを学んでよかったです。まだま

知っほじよ犬のことも知らない人
 と聞いたので、もったくさんのお
 知っほじよ犬のことも知らない人



